

第 2 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 3 号)

1 平成3年6月18日（火曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	19番 川名 正二
21番 神田 守隆	22番 福原 勤
23番 石井 昌治	24番 石井 輝久
25番 流山源次郎	26番 辻田 実
27番 横溝 功	28番 飯田 義男

1 欠席議員 2名

18番 日下 君敏	20番 生稲 隆
-----------	----------

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 渡辺 弘	市長公室長 佐藤 輝雄
総務部長 二通 英雄	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 脇田 元始	建設部長 伊東 衛
水道課長 鈴木 信一	教育委員会 福原 修 教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 土橋 康彦
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 加藤 浩一	

1 議事日程（第3号）

平成3年6月18日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時04分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数26名、これより第2回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

質問の方法等はきのうと同じであります。

これより発言を願います。

9番議員脇田安保君。御登壇願います。

（9番議員脇田安保君登壇）

◎9番（脇田安保君） 私は本年4月に行われました統一地方選挙の選挙活動を通して市民の1人1人と対話をする機会に恵まれました。市民の皆さんの多くは新しい庄司市政に期待をしておりました。半澤市政では果たし得なかった福祉の充実、また21世紀を展望した将来の館山市の教育のあり方、また環境の整備等についてたくさんの意見や要望が私の手元に寄せられました。市民の要望には種々雑多な意見がありますが、これらを最大公約数的に集約したものを市民の代表的な意見としてとらえ、今後の施策の参考にすることは大いに価値あることであると私は考えます。

さて、今回の通告質問は、市民の意見の中から最も関心の深かった数点を取り上げて御質問申し上げます。

まず、第1点は高齢化社会の到来に備えての福祉の充実についてですが、この福祉の問題については市民は大変高い関心を示していました。

さて、そこで厚生省がさきに発表した平成元年国民生活基礎調査によりま

すと、我が国の全世帯に占める高齢者世帯 ― 男性65歳以上、女性60歳以上だけの世帯の割合が初めて10%を突破していることが明らかになりました。そして、65歳以上のお年寄りがいる世帯が27%に達しているのが現状です。それに対して政府は平成2年度から高齢者保護福祉推進10カ年戦略をスタートさせました。また、10カ年戦略では、平成11年度までに高齢者の日常生活の世話を行うホームヘルパーを10万人にする。寝たきり老人が特別養護老人ホームなどに短期滞在できるショートステイを5万床にする。日帰りで入浴、食事など各種のサービスを利用できるデイ・サービスを1万カ所にするという方針を発表しております。これから在宅福祉の3本柱を整備し、今後強力に推進していく必要があるとしております。

さて、これが政府の方針であります。これに対応して地方自治体ではどのようにこれを具体的に進めていくかという観点から私は質問してまいりたいと思うのです。

まず第1点についてですが、このホームヘルパー、ショートステイ、デイ・サービスについてですが、これらは市レベルではきめ細かく市民に対応していかなければならない施策であろうと考えます。そこで、ホームヘルパーについては増員ができないかお尋ねします。ショートステイについては、受け入れ態勢の拡充を図れないか、つまり受け入れ人数の枠の拡大は図れないかという点についてお聞きしたいと思います。デイ・サービスについては、私が本年3月に本議会で質問いたしました。その後どのような検討をされていますか。このデイ・サービスの方式としては、A、B、C型それぞれメニューのスタイルがあるようですが、どのような方向で進められているのかお答え願いたいと思います。

次に、在宅介護支援センターの開設についてですが、これは介護技術の指導や入所施設のあっせん、介護機器の展示、また悩み事相談などに応ずる介護110番的な役割を果たす身近な多機能の相談窓口を設置して住民のニーズに応えようというものです。この介護支援センターについてどのように考えますか。

次に、福祉タクシー制度の拡充についてですが、この福祉タクシーは私が

昭和63年6月の本会議で通告質問で提案し、平成元年に制度化が実現を見たのです。この制度は、身体障害者手帳の交付を受けた者で、その障害の程度が1級の者、ただし視覚、下肢、体幹移動機能障害については2級以上の者を対象にタクシーの乗車券を年間24枚支給するものでありますが、実施以来利用者には大変喜ばれているものでありますが、私は今までの実施その他から見て、この対象者の枠を拡大したらどうかと思うのです。この点についてどう考えますか。

次に、身体障害者の雇用問題ですが、これは大変重要であり、かつ深刻な問題であります。民間企業の身体障害者の雇用が一向に進まないのを重視した労働省は、たび重なる指導や勧告にも改善策をとらない企業について社名公表に踏み切ることを決めたと言われています。そこで、役所の雇用状況と民間事業所の雇用実態についてお聞かせ願いたいと思います。

次に、第2点目の地域環境美化に関する条例についてであります。これは捨てられる空き缶をなくしてきれいな環境を保つことを目的とした条例を制定したらどうかという質問です。最近海に山に公園に、また心なきドライバーが道路縁にと、人の集まる場所、人の通ったところ、ありとあらゆる場所に空き瓶、空き缶が山積みしてしまいます。これはせっかくの自然の美観を壊し、また子供に対する道徳教育上からもはや見過ごすことはできない問題にきていると言えます。また、農村地では、田畑に投げ捨てた空き缶は農作業に支障を来すケースもふえてきております。先般耳にした標語の中に「空き缶は捨てれば公害、集めれば資源」という標語がありますが、まさにそのとおりで、捨てられた空き缶は公害そのものであり、それをリサイクル運動で回収すればとうとう資源に変わるのであります。ですから、市民の間にこのリサイクル精神を高めていく必要があろうかと思ひます。そこで、私は地域の環境美化に関する条例を制定し、具体的に市民がリサイクルに参加する方法をつくり、回収運動を展開したらどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

また、JR蘇我駅で空き缶回収機を設置し、空き缶を投入すると引きかえ券が出てきて、50枚集めるとオレンジカードがもらえるというシステムで、

これが大変好評で、当初の予想をはるかに上回っている状況という話です。また、デポジット方式という方法もあり、空き缶を返すと10円返却してくるものですが、これも好評のようです。そこで、当市においてもいろいろな対策が考えられると思いますが、まず公民館、青年館、図書館、市民センター等の人の多く集まる公的な場所に空き缶圧縮機を設置したらどうかと思いますが、この点について当局の見解をお尋ねいたします。

次に、ごみ処理対策についてお尋ねいたします。当市の清掃センターは昭和59年に稼働を始め、1日100トンの焼却能力を持っていると言われていますが、現在はごみ質の高カロリー化のために85%程度しか焼却できない状況のようであり、このまま推移した場合にはごみ搬入量が焼却能力を上回ることで予想されると言われています。そこで、生ごみの堆肥化についてお尋ねします。各地でごみの減量化、有効利用をねらった家庭で直径50から90センチ、高さ69から110センチの円筒型の容器の中に生ごみを捨て、雑草、落ち葉などをまぜると三、四カ月で堆肥に変わるものです。そこで、ごみの減量化、再資源化を推進するために、家庭で処理容器を使って生ごみの減量化への取り組みについてお伺いいたします。

次に、ごみ集積所の設置はできないか。現在市内の1,365カ所のごみ集積所から月に1,200トン弱のごみが収集、処理されています。この各家庭から排出されるごみ集積所に市が表示板を設置してありますが、このところ地元住民が自主的に収集施設を設置するところが多く、集積所のつくりがまちまちでは収集するにも時間がかかり、交通の妨げになっています。そこで、集積所施設を市で統一したらどうかと思いますが、いかがなものでしょうか。

次に、第3点目のインダストリアルパーク計画についてですが、この件に関しては私は今まで3回ほど御質問申し上げましたので、前回の答弁からの継続的な質問になります。

さて、インダストリアルパークの進入路と排水路の計画についてですが、これはこの計画の骨子となる部分なので、慎重に、かつ将来効率的に利用できるように考えて進めていただきたい問題なのであります。そこで質問に入りますが、現在この進入路と排水路はどのように検討がなされているのかお

答え願いたいと思います。これが第1点です。

次に、この計画と切り離せないのが九重駅の周辺の整備なのであります。九重駅がインダストリアルパークの表玄関的な位置にあり、将来はパークで働く人たちの通勤駅になる可能性も大いに考えられるという点であります。ですから、これはパーク計画の全体の中にこれを含め、検討を進めていかなければならない問題であろうと思います。そこで、九重駅周辺の現状を見ると、これは手を加え、整備をしていかなければならない点が多く見受けられます。古くなった駅舎はもとより、周辺の環境整備は大変おくれの目立ったものとなっております。そこで質問であります、この九重駅周辺の整備についてどのようなお考えですか。特に、乱雑に放置されている駐輪場の整備についてお聞かせ願いたいと思います。

それからもう一点、パーク計画と有機的に関連してくるのが、工業団地で働く若者たちの技術を向上させる専門学校の必要性であります。これは当然将来の問題になると思いますが、今のうちから基本的な構想として明確にしておいた方がよいのではないかと考えますので、御質問いたします。一口に専門学校と言っても、情報処理の学校からエンジニアリングに至るまで種々ありますが、若い人たちを地元に着させ、就職させていくという観点から見ても大事なことだと思うのです。また、平成3年度に発刊された館山市基本計画には次のように示されております。「今後も就学機会の確保と助成の推進を図るとともに、大学や短大への進学者が東京をはじめ市外に流出していることから、本市における教育文化の向上と若者の定着による地域の活性化を図るため、関係諸機関の動向及び立地条件等を考慮しながら、大学等高等教育機関の誘致実現の方向を求めることが課題となっています」とあり、また高等教育機関等の誘致については次のように示しています。「本市の学術や文化の向上、発展に寄与し得る個性と特色ある国・公・私立大学及び専修学校等の誘致について検討します」というように将来の方向を定めています。このように当局の学校誘致の積極的な方向が明らかになっていますので、私はインダストリアルパーク計画に関連して、専門学校の誘致について当局がどのように考えているのか、この際御見解を承りたいと思います。

最後に、道路整備と交通安全対策についてですが、庄司市長は道路整備について施政方針の中で次のように示しています。「さらに、生活に密着した道路及び河川の改良や整備を地域の実情に即して実施し、利便性、安全性の向上に努めてまいります」と生活道路の整備を約束しています。

そこでお尋ねしたいのは、当市には道路整備網の検討委員会が設置されていますが、これは横断道や東関道館山線、また館山白浜バイパスなどの道路整備に関する対応に万全を期すためのこととのことですが、平成7年度完成を目指して工事が進められている東関道館山線の進捗状況についてお伺いいたします。

また、当市を南北に通る道路としては、バイパス道路の工事が進んでいます。そして、東西に通る道路としては、現在国道128号線がありますが、私は現在の車社会の状況から考えても、東西に延びる道路が必要ではないかと思います。ようやく都市計画道路として完成した八幡－高井線を萱野まで延長して当市の主要幹線道路に組み入れることはできないかと思いますが、この点検討をされているのかお伺いいたします。また、20年前に決定された都市計画道路もあろうかと思いますが、市民生活の変化や社会の多様化を考えて、現実に対応した見直しを検討する時期にきていると考えます。この都市計画道路の見直しについて検討されているのかどうかお尋ねいたします。

次に、交通安全対策についてですが、当市には事故防止のために950基余りのカーブミラーが市内の危険箇所に設置してあります。先般党員とともにカーブミラーの清掃を実施したところが、余りにもひどい汚れに驚いた次第であります。事故防止のために設置されたはずのカーブミラーも、このように汚れていたり、草木が覆いかぶさったり、また曲がったり、非常に見にくい状況で放置されたままでは、安全対策の面から見ても事故防止には決してならないと思うのであります。このカーブミラーは当然見通しの悪い箇所に事故防止のために設置されており、ドライバーはこのカーブミラーを頼りに運転するわけであります。したがって、このカーブミラーはドライバーにとって命綱同然と言っても過言ではないと思います。現代の車社会の時代に事故防止のために欠くことのできないこのカーブミラーの維持管理の必要性が

急務だと思えてなりません。しかし、道路維持管理者である市においても清掃どころか設置のみで、あとの維持管理は無策に等しいのが現状であります。カーブミラー清掃業務を民間業者に委託すべきであると思いますが、当局の見解をお尋ねいたします。

また、交差点での事故対策についてですが、かねてから市民の要望であります竹原、広瀬の信号機の設置についてですが、昨年からことしにかけて事故が多発しており、早期に対策を講じていただきたいのですが、この点はどうか。

以上、私は初めに申し上げましたように市民の要望に沿って御質問いたしました。当局の前向きな御答弁を期待するものです。なお、御答弁によりまして再質問をさせていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの脇田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の高齢化社会の到来と福祉の充実の問題でございます。小さな第1点目、ホームヘルパー、ショートステイ、デイ・サービス事業についての御質問でございますが、ホームヘルパーの増員につきましては、制度の今後のあり方を含め、需要に応じた人員を計画的に配置してまいります。ショートステイの受け入れ態勢につきましては、館山特別養護老人ホーム及び館山養護老人ホームに加え、本年度から三芳光陽園と委託契約を締結いたしましたので、これで対応を図ってまいりたいと考えております。デイ・サービス事業につきましては、事業の拠点となるデイ・サービスセンターを特別養護老人ホームに併設することが原則でありますので、広域的に設置の方向で現在も近隣町村と協議しているところでございます。施設の規模といたしましては、できればB型、状況によりましてはC型で実施することも考えております。

次に、小さな第2点目、在宅介護支援センターの開設についての御質問でございますが、これも特別養護老人ホーム等に併設を原則とし、ソーシャルワーカー、看護婦または保健婦、介護福祉士を配置しての24時間体制であり、

また消防署、医療機関等関係機関との協議も必要であり、大変な事業ですので、今後近隣町村と慎重に協議したいと考えております。

次に、小さな第3点目、福祉タクシー制度の拡充についての御質問でございますが、この制度は重度障害者の移動能力をカバーすることを目的としておりますので、対象者は現状のままで進めてまいりたいと考えております。

次に、小さな第4点目、館山市役所の身障者の雇用状況との御質問でございますが、障害者の雇用の促進等に関する法律、この規定により、館山市のその雇用状況は毎年千葉県商工労働部長に報告しておりますが、雇用数において充足いたしております。なお、安房郡内の雇用状況は92人でございます。これは従業者63人以上の事業所について把握したものでございます。

大きな第2、地域環境美化の問題について、小さな第1点目、環境美化に関する条例を制定してはどうかとの御質問でございますが、当市におきましては昭和62年度から清潔で美しいまちづくりを基本理念といたしますクリーン・アンド・ビューティフル運動を推進し、環境美化に対する意識の高揚を図っております。したがって、現段階では条例の制定につきましては考えておりません。

次に、小さな第2点目、デポジット方式で空き缶の回収について、小さな第3点目、空き缶圧縮機の設置についての御質問でございますが、当市におきましては分別収集及び春、秋の一斉清掃等により空き缶の回収を実施しております。設置場所、設置管理、回収方法等課題もありますので、現段階ではこれらの導入については考えておりません。

次に、小さな第4点目、生ごみの堆肥化についての御質問でございますが、現在各家庭等から出されるごみは平成元年度からごみ質が変わり、紙類が全体の40%から50%を占め、高カロリー化しております。このため、カロリーを下げ、焼却能力のアップを図るために、水分を多く含んだ生ごみは焼却炉の運転に支障とはなっておりませんので、現在のところ堆肥化については考えておりません。今後の検討課題にしたいと考えております。

なお、ごみの減量化につきましては、平成2年4月から古紙の分別収集を始めた結果、平成2年度の清掃センターの処理量は2万306トンであり、平

成元年度の処理量2万681トンと比較して1.8%の減となっております。今後とも古紙の分別収集について市民の協力を得ながら一層の進展を図り、ごみの減量化に努めてまいりたいと考えております。

次に、小さな第5点目、ごみ集積所施設を市で統一したらどうかとの御質問でございますが、集積所はごみの質、量及び敷地の問題等地域の実情に合わせ、地元住民が自主的に設置、管理をしており、統一的な集積施設を設置することは考えておりません。

次に、大きな第3のインダストリアルパーク計画にまつわる問題でございます。小さな第1点目、インダストリアルパーク計画に関する進入路と排水路の現在の状況についての御質問でございますが、平成2年度に基本計画を策定し、整備の基本的な方向を定めたところであり、本計画につきましては千葉県企業庁が事業主体となり、推進する予定でございます。進入路につきましては、国道128号線部分から稲地区に入り、工業団地に接続する計画でございます。排水路につきましては、工業団地から稲川排水路、竹原川、滝川へ排水する計画でございます。それぞれの細部につきましては、現在事業主体を含めまして地元の皆様や関係者等と協議を重ねているところでございます。

次に、小さな第2点目、九重駅周辺の整備について、特に駐輪場の整備についての御質問でございますが、現在の駐輪場はJR敷地内に約70台、駅利用者の通行に支障のない程度で自由に駐輪されております。今後周辺整備との整合性を保ちながら検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点目、専門学校誘致についての御質問でございますが、現時点ではインダストリアルパーク計画に関連しての専門学校の誘致は考えておりません。

大きな第4の道路整備と交通安全対策について、小さな第1点目、東関東自動車道館山線の進捗状況でございますが、千葉―木更津間につきましては日本道路公団により平成4年度完成を目指し一部工事が着工され、木更津―富津間につきましては現在調査等が実施されております。また、富津以南の整備でございますが、高規格道路として金谷道路、鋸南道路は既にトンネル

及び橋梁工事等着手されております。さらに、富山－富浦道路につきましては、地元関係地権者の説明会を終え、用地の取得交渉が進められていると伺っております。なお、東京湾横断道路の完成に合わせまして供用開始できるよう、建設省初め関係機関に強く要望しているところでございます。

次に、小さな第2点目、都市計画道路の見直しについての御質問でございますが、主要な道路の計画に当たりましては将来の都市構造等を総合的に勘案して決定されるものでございます。したがって、現在行われている道路整備等検討委員会の検討結果並びに都市マスタープランの策定等を踏まえて検討していくことになると考えております。

次に、小さな第3点目、カーブミラーの管理についての御質問でございますが、本年度から鏡面の取りかえを実施しているところでございます。なお、今後点検を行っていく中で、清掃によりまして機能が回復するものが多くあれば、清掃委託も検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第4点目、竹原、広瀬の交差点での事故対策についての御質問ですが、該当の交差点での交通事故防止のため、各種安全施設の整備を図ってまいりました。信号機の設置につきましては、昭和62年県公安委員会に要望したところ、現時点では交通量が少ないという点で設置はできないということでした。

以上で答弁終わります。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 最後の市長答弁で漏れがあったんですけれども、それはまた再質問のところで伺っておきたいと思っておりますけれども、ちょっと最後の八幡－高井線の萱野までの延長ということに対して、ちょっと市長の方の答弁がなかったものですから、また再質問で伺います。

では、再質問させていただきます。最初の高齢化社会の到来に備えての福祉の充実についてであります。これは厚生省が昨年国勢調査をもとに21世紀の日本の人口動向調査ということで、将来人口推計によりますと、女性の今騒がれております生涯平均出産数は、戦後最低だったのが1989年でありまして、さらに本年に入って下回っている、そういうような記録が出てきまし

た。この結果、総人口は2010年にはピークに達するんだ、その後は減少に転じていくと言われております。また、人口に占める高齢者の割合が3割を超える町村が全国に出始めてきております。高齢化が急速に進んでいる中で、在宅福祉の充実は急務だと思いますので、こうした中で鳥取県では集落ごとに集会所や保育所などの既存の施設を利用して介護が必要なお年寄りを日中預かる託老サービスということをやろうとしておりますけれども、これは従来の在宅サービスと全然異なりまして、このように毎日でも身近な場所で触れ合えるという場をつくっていく。全国でも珍しいというような新しい対策で、全国的に注目をされております。まだスタートしておりませんから、今後の要するに動向を見ていきたいと思っております。当市においても老人人口は約20%弱になってきておりまして、これ高齢化じゃなくて高齢社会にもう入ったかなと言っても過言ではないと思います。

そこで、何点か質問させていただきますけれども、先ほど御答弁にございましたように、ホームヘルパー、これは確かにその需要に応じてしていく、ふやしていくんだ、計画的にやっていくということでございますけれども、現在のヘルパーが私の記憶では十二、三名おると思いますが、1日何人の方、多い方もいれば少ない方もおると思いますが。それで、1日何人の方を面倒見ているのかまず伺います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ホームヘルパーの方々が1日何人ぐらい見ているかという御質問でございますけれども、おおむね1軒について2時間、35名プラス身障者の方々10名を面倒見ているという現状でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 35名 — 1人が35名ですか、これ。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 全部ででございます。

◎9番（脇田安保君） そうしますと、大体1人当たり何人になりますか。10名ちょっとかなと思いますけれども、といいますのは、私が聞きたいのは、今回の — これからもそうですけれども、5月の連休ございましたね。それで、またこれ今後もっと連休が、休日が多くなってくるといいますと、その

受ける側、ヘルパーに頼っている側は、週2回訪問させていただいている側とすれば、もうその週によっては10日間ぐらい全然ヘルパーの方が来ていただけない場合が現段階でもあるわけです。また、この5月の連休にございました。そういう意見も私も承ったんですけれども、そうしますと現体制の中では、休みの人がそのまま翌日決まっているところには行かなきゃならないで、休みの日のかわりはできないというような体制のもとに、私が提案したいのは、そのほかに登録ヘルパーということはこれできないかどうか、その点伺います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 登録ヘルパーの制度でございますけれども、制度として実際にあるわけでございますが、ただその場合に現行のホームヘルパー制度が非常に問題があるとか、そういうときの補助的な制度であるというふうなことが理解されているわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） では、現行の中で対応できるというふうに解釈してよろしいかと思います。

次に、ショートステイの問題ですけれども、これは三芳で受け入れ態勢を拡大したために、現在の枠の中で対応できるというような御答弁でございましたのでよろしいんですけれども、その利用する側——1点だけ伺っておきたいんですが、利用する側が現在利用する場合に、最初申し込む場合に身体検査なり検査して、それから登録するわけですけれども、今の制度ではショートに預かっていただくとき、その都度その都度申請をしなければならぬというふうな手続を踏まなければならないわけです。これを年一遍市役所に申し込んで、窓口申請すれば、1年間何度でも施設に直接自分が——家族の方でもよろしいですけれども、電話でなり、あるいは口頭でもよろしいけれども、申し込みができるというような、簡単な利用券的な制度が各地でスタートしております。当市もそういうふうな考えを持ってやることについてはどう考えますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 御指摘のとおり、利用券の発行によるショートステイでございますが、現在もいろいろ検討中でございます。早急にこの実現を図りたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） その問題は、ショートステイは現在行っておりますけれども、デイ・サービスはまだ行っておりませんから、デイ・サービスが始まったときに利用券も両方一緒に、同時に — その前にショートステイの方をお願いしたいというふうに思います。デイ・サービスもその方向でお願いいたします。

その中で、最後にデイ・サービスの型はAあるいはB型を採用して行っていくんだということでありますけれども、このデイ・サービスは市単独でこれはできる問題じゃありません。特老が併用してやらなきゃならない問題ですから、広域圏的な問題で、当館山市として単独でやるわけにいきませんので、近隣町村に協力をし、またそのリーダー的な位置を市としてとっていただきたいと思います。

それで、1点だけ伺っておきたいんですけれども、これ介護支援センターについてですけれども、これは本当に大変な事業であります。24時間体制ということでもありますけれども、私の相談受けた中で、いろいろせんだったの方が介護疲れでどうしたらいいんだということで相談 — 要するに介護の仕方、あるいは急にそういうふうに病気が出た場合に、自分がじゃあどこに相談したらいいのかな、どこでアドバイスを受けたらいいのかなという要望意見もありました。現在こういうアドバイスをしてくれるところはどこで — 県内でもよろしいんですけれども、郡市内でどこへ電話して聞けば — 寝たきりとか、あるいは痴呆になった場合に即アドバイスしてくれるようなところはございますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 即ということでございますが、今のところ福祉事務所でもこういう対応をしております。そういうことでひとつ御理解いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） この制度は大変な制度で——介護支援センターって大変な制度ですけれども、私が希望する、要望するのは、デイ・サービスセンターは、これは検討し、今後特老と併用してやっていくと思います。そのときに、その時点にこれを併用して、介護センターを特老で開設できないかなということなんです。ということは、今おっしゃいましたように、要するに普段の時間帯——役所の福祉事務所の職員の勤務時間帯はよろしいですけれども、それ以外の時間は——やはり夜とか、あるいは突然起こった場合にじゃあどうしたらいいんだ、医者にもなかなか相談できない、こういうようなときにこれは看護婦さんが事細かく対応できるようなシステムになっております。ですから、この点をぜひともデイ・サービスの事業と並行してひとつお願いしたいと思います。それを市がリーダーシップをとっていただきたい、そのように特に要望しておきます。

では、福祉の問題はこれにて終わりますて、次にごみの問題に移りますけれども、環境庁は平成2年度に実施した——私が聞きたいのは、空き缶の投げ捨て実態調査というのをやっておるようです。その発表によりますと、国道など主要幹線道路では1日に100メートル当たり2.4個、海岸、湖は1,000平方メートル当たり2.1個の空き缶が捨てられておる。平成元年の調査と比べてみると、それぞれ2.3、1.9とふえています。この調査方法は、毎年夏に全国の700市町村の同一場所で実施している。当市でも実施されておると思いますので、この調査されている結果についてまずお聞きします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この調査はただいま御指摘にありましており環境庁が実施しているわけですが、元年度の調査でございしますが、北条海岸におきまして3項目——空き缶がどうか、空き瓶がどうか、その他がどうかという3つの調査項目でやっているわけですが。館山の場合は空き缶が——これは1週間でございしますが、1日目が23個、2日目が10個、1日当たりにして1.4個、これは全国平均で1.9個、全国平均より比べて若干少ないということです。それから、空き瓶につきましては、1回

目が1個、それから2回目がなし、1日当たり平均してゼロということで、全国では1日当たり0.5個ということでございます。それから、その他で、1日目が— これはその他というのは空き缶、空き瓶以外のものでございますけれども、1日目が173、2回目が78、1日当たりが11.1。全国平均1日当たりが5.9ということで、これは全国平均よりも上回っているという数字でございます。そういう状況でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ちょっと時間がありませんから少し急ぎますので…。

確かに海岸と国道あるいは幹線道路とは違いますけれども、私が言いたいのは、とにかく空き缶がもう散乱状態に— もう目に余る状況であります。でありますので、先ほど質問いたしました、とにかくこの空き缶の回収方法として、これは先ほども言ったように「捨てれば公害、集めれば資源」というこの標語、これはそのものであると思います。ですから、このリサイクル運動を始めたのは、県内自治体では一宮町が初めて回収器を設置したわけです。これは今月ですか。6月だと思います。設置して、これを業者に引き取らせて、その売り上げは子供会の運営費に充てるというような画期的なものを始めたわけです。これはその後の経過を見なきゃわかりませんが、そこで再度質問になるかと思いますが、自動販売機の現在置かれているところに回収器といいますか、回収箱といいますか、空き缶の、それは設置するような義務が法的にできているのかどうか、その点伺いたいんですけれども。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） そういう法的な義務はないと思います。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ないということですが、なければ散乱してもやっぱり仕方がない、そこで売ったものは自分で処理できないんだというように思います。ですが、これは行政としてぜひとも設置を指導していただきたいと思います。この点は要望して終わりたいと思います。

次に移ります。インダストリアルパークについて伺います。これは地元のことでですから少し時間をいただきたいなと思いますので……。

先般地元の議員と地権者と県内の長柄町、長柄工業団地、それから茂原市の茂原工業団地、それから千葉市、土気緑の森工業団地——これは造成中ですけれども、視察をする機会ができました。

そこで何点かお聞きしたいと思いますが、初めに進入路についてであります、これは3月議会でも出てきましたんですけれども、先ほども御答弁で128号から稲側にその進入路をつけるんだ。そうすると、これはオーバーパス的な道路になってくるかなとは思いますが、128号から直接稲の方につけていくということになると、ちょっとこれは大変な工事かなと思うんです。128号線とJRとの間が幾らもありませんので、このようなことは工事的に——専門分野ですけれども、可能なのかどうかまず伺います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 高架の予定で現在進めてます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） いや、高架ということはわかりますけれども、私が聞きたいのは、国道と——128号線でございますね。128号線とJR——軌道敷がありますけれども、その間の距離が余りにも短い。今現在オーバーパスができています。あそこは富浦バイパスの取り付け道路ですか、あそこの高架を見ると、はるか遠くからJRを越えているというような感が見受けられるわけです。ですから、私もすぐ近くですから、その間であの状況から見た場合には不可能に近いんじゃないかということをお聞きしているわけです。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 概要としては、一たん逆に三芳方面ですか、あちらの方へ回して上がっていくということになろうと思いますが、具体的に進入路の方の関係がまだはっきり決まっておりません。これ地元も協議中でございますので、これを現在優先して、ただ考え方としてただいま申し上げたような方法になろうか、こんなふうに考えてます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安寿君。

◎9番（脇田安寿君） 確定されていないということでもありますから、先に進めていきたいと思います。

そうしますと、中の稲側に入った農用地についてもまだ地元と協議されていると思いますので、その上に入りまして、工業団地内の道路について若干 — わかる範囲でよろしいですけれども、説明していただきたいと思います。これは長柄、茂原についても工業団地は団地専用道路だったわけです。それで、当インダストリアルパーク — 館山市の工業団地については、工業団地に入る専用道路でいくのか、それとも一般道路にしていくのか、その辺の考え方をまずお聞きします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 一般道路として考えております。将来的には関係機関と協議を図りまして、館山—大貫—千倉線へ接続する幹線道路というふうなことを考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安寿君。

◎9番（脇田安寿君） そうしますと、幹線道路が1本多くなってくるのかな、またいろんな面で今の — 長柄町の専用道路ができた場合12メートルでしたけれども、幅が、それ以上のものをつけて道路整備もなされてくるのか。結構なことであります。

次に、一番心配されるのは工業用排水でございます。この工業団地の下流には、先ほども御答弁の中に農業用水 — 滝川という農業用水を蓄えている河川がございます。長柄では生活雑排水や工業排水は直接調整池に入れておりました。茂原では生活雑排水にしても工業用水にしても河川に放流しているというような工業団地、まるっきり違うような団地の形成であります。そこで、当市はこの工業団地の工業排水と生活雑排水、それは直接調整池に入れていくのか、あるいは調整池に入る前に工場から排出される — 工場は決まっておりますから、どのような工場かわかりませんが、チェ

ックできるような施設を調整池の前につけていくのか、その点お聞きしたいんですけれども。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） まず、生活排水関係は污水处理場で処理をしてから調整池の流入、こんなふうに考えております。それから、工業排水でございしますが、これは企業ごとに浄化処理施設を設置いたしまして、排水基準まで処理した水を調整池へ流す、チェック体制を確立したい、このように考えています。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ぜひ下流の農業用水に害が出ないようにチェックをしていただくような体制を嚴重にとっていただきたい、そのように要望しておきます。

それと、これは細かい点になるかと思いますが、わかる範囲で結構ですけれども、当市はこの計画で——インダストリアルパークの工業団地ですけれども、その用地面積は約70ヘクタールと言われております。そのうちに工場用敷地、また工場の分譲区画といいますか、何区画に計画しているのか。

それと、私が心配しているのは、進出してくる企業——長柄町では13社、茂原工業団地は16社工業団地に進出してきております。また、分譲しております。その中で最も小さい会社、従業員数は17名でございました。これは茂原工業団地です。最も多く従業員がおります会社が、これは東陶という会社で250名でありました。それで、当市はその従業員を何人ほどをめぐりにして企業計画をされているんですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） まず、最初の工業団地の関係でございしますが、68ヘクタール今のところ計画でございします。うち3割で、20ヘクタール程度が工業団地ということで考えております。

それから、ここに働く人の数的な今の御質問でございしますが、企業の中身

がまだ全くわかっておりません。したがいまして、おおむね全体で 1,500 から 2,000 名、こんなふうなことを考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9 番（脇田安保君） 進んでいると思いますけれども、その点ぜひとも——これは館山市の、また安房郡においてもビッグな雇用の場の促進になるかと思しますので、ぜひとも成功していただきたい、そのように思いますけれども、1 点だけ伺っておきたいのは、私が心配しているのは、工業団地はできました。売れ残りましてというような懸念がなきにしもあらずでございまして、県内で工業団地、県企業庁が分譲している工業団地もございます。市町村が分譲している工業団地も数多くありますけれども、その中で現在売れ残りはあるのか、売れ残っていれば、どのような原因で工業団地そのものは売れ残りになっているのか、その点 1 点伺います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 県の全体の工業団地関係はちょっと数の方が調べておりませんが、先般県の方、企業庁の方にお尋ねしたわけですが、売れ残りというのは 1 つもないそうでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9 番（脇田安保君） 時間がありませんから、工業団地に関してはまた継続して、後ほど機会を見てお願いしたいと思いますので、最後の道路問題に移りたいと思います。

これは東関東館山線についてでありますけれども、進みぐあいは今市長が御答弁なさいましたけれども、半島性ということで、館山市はもうこの道路に最大限期待しているわけです。私もいろいろな方から要望意見伺っているんですけども、東関東はいつできるんだ、そういう声が数多く聞かれるわけです。

それで、平成元年の 12 月議会で私が質問した中で、富津以南につきましては、金谷道路は平成元年度から用地買収に入って、鋸南道路については 95 %

の用地取得ができたんだ、それで一部は、鋸南道路については平成4年度に完成が見込まれているという答弁を平成元年12月議会で私はお聞きしまして、そのとき喜んだわけでございますけれども、この平成4年といいますと来年度になるわけです。私もその鋸南道路にしても金谷道路にしても現在工事やっているところを見る機会がちょっと今現在のところございまして、議会の答弁を丸々要するに信用して喜ぶ次第でありますので、ちょっと腑に落ちない点がございまして、この点まず伺いたいんですけれども。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

平成4年度完成が見込まれていると説明しておりますんですけれども、当時の千葉国道関係者からそのように発表されたのでというふうに推測しております。これについてはよろしいですか。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） いいです。

◎建設部長（伊東 衛君） それでは、東関道がいつできるのかということのお尋ねのようですけれども、千葉－木更津間が用地取得率76％になっております。それから、木更津－富津間が現在環境アセスメントの調査が実施されておるそうでございます。次が金谷道路、これは富津から鋸南にかけての道路でございますけれども、用地取得率が63％、工事用の取り付け道路の完成、鋸山トンネルが1,500メートルのうちの760メートルが進んでおるそうでございます。鋸南道路、これは鋸南と富山の関係の中の道路でございますけれども、用地取得が97％、大帷子トンネルを初め各トンネル工事が、あるいは橋梁工事が進められているところでございます。富山富浦道路については、路線測量、地形測量、用地測量が完成しております、ただいま用地買収を本年度から実施するということでございます。平成7年度目途にかけて今関係者それぞれ努力しているということでございます。

以上です。

◎9番（脇田安保君） 議長、時間でありますけれども、先ほど市長の答弁漏れございました。これは時間外でよろしいですか。

◎議長（福原 勤君） はい、結構です。

◎9番（脇田安保君） 答弁お願いします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 八幡－高井線の道路延長を考えているかとの御質問でございますが、この問題についてはこれからの検討課題でございます。

◎9番（脇田安保君） 終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で9番議員脇田安保君の質問を終わります。

次、7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 議員として初めての質問でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

私は既に通告してございます4点について御質問をさせていただきたいと思ひます。

第1点目の御質問でございます。ごみの減量化及び再資源化についてでございます。全国的にもこの問題は各自治体で大変な努力をされているようでございます。館山市でも古紙回収をされており、近ごろではカレンダーなどによる市民の意識高揚にも努めておられ、大変結構なことだと思っております。また、市民の間では生協等を中心とした牛乳パックの回収運動が盛んになってきておりますが、牛乳パックは再生紙としては大変上質なものになると聞いております。私も経験しておりますが、牛乳パックの回収は、出すには若干の手間がかかりますが、ごみも減っていくわけですし、再生紙にもなる上に、焼却場の炉の傷みぐあい、大分解消されていくのではないのでしょうか。松戸市役所ではごみを減らす課というのが発足され、リサイクル業者、町内会などと一体となつての回収が行われているそうでございます。

そこでお伺いをいたしたいと思ひます。館山市では牛乳パックの処理は現在どうされているのでしょうか。将来的に牛乳パックの回収をしていきたいというお考えがありますでしょうか。

次に、第2点目でございます。この御質問は日下議員と重複いたしますが、あえて質問をさせていただきます。城山公園の利用状況についてでございま

すが、城山公園は子供たちの遊び場として、また市民の皆さんの散歩場所等、広くは市外の方々にも利用をいただいているようでございます。私もよく利用いたしておりますが、土曜、日曜になると人出も大変多いように見受けま
す。城山は、その頂上からの景色は大変すばらしいものだと思っております。

公園を利用されている方々から、整備をされていて大変きれいだけれども、子供を連れて頂上に行っても子供の遊び場がない。また、お年寄りの方も登っていくにも大変だ、ベンチがもう少し置いてあったら助かるよという声を聞きました。私も登ってみましたが、全くそのとおりだなという実感を持ってまいりました。下の広場にはブランコがあります。山の中腹と申しますんでしょうか、かなりの規模の遊び場があります。頂上にもミニ遊び場をつくれるスペースはあるんじゃないかと思います。以前にはブランコ、滑り台等あったように記憶しております。

市長さんにお伺いをいたしたいと思います。歩いて城山を登った経験がありでしょうか、ぜひ登ってみた感想をお聞かせ願いたいと思います。また、子供たちのミニ遊び場を頂上におつくりになられるお気持ちはあるでしょうか。また、ベンチの増設をというお年寄りの要求に対してのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

次に、第3点目でございますが、川名岡地区の下水設備についてでございます。私はさきの選挙で、大変困っていることがあるので見てほしいという市民の方の訴えで伺ったところ、生活雑排水を流す先がないということでした。現場を見て大変驚きました。側溝を設備するにも近隣の方々との話し合いがつかず、やむを得ず宅地内に何カ所もため池をつくったり、御自分の畑へと管をつなぎ、ため池をつくっての処理をしていました。私が伺ったのはまだ寒い時期でしたが、近くを通っただけでもにおいが鼻をつき、夏になったらどんな状態になるんだろうなと思ったりしたものです。このようにどうしたらよいのかわからず、日々御苦労されている市民の方々に対して市としての対策はどうなっているのでしょうか。とても文化的な生活をしているとは思えないこの方々の現状をお訴えし、市としての御答弁をお願いしたいと思
います。

次に、第4点目でございます。在宅福祉対策の現状と今後についてでございます。高齢化が著しく進行している館山市においては大変重要な問題だと思いますが、当市は在宅福祉対策の一環としてデイ・サービス事業を積極的に推進することですが、この問題につきましては先ほど脇田議員の方からの御質問がございました。内容が多少重複することになるかと思いますが、それだけ期待をし、関心を持っているということで御了承を願いたいと思います。

近ごろシルバー産業としても在宅介護サービスが注目をされているようです。需要があるからだと思うんです。東京のあるデパートでこのサービスを始めたところ、ホームヘルプサービスとしては1時間 2,000円前後、また入浴サービスに至っては1回1万 5,000円もするそうです。内容は現在館山市で行われているヘルパーさんの派遣制度と何ら変わりがないようでした。館山市では派遣されているホームヘルパーさんたち、職員を含めて13人の方と聞いていますが、派遣の費用は所得税課税世帯からは課税年額に応じて1時間当たり 200円から 650円、そして同非課税世帯以下の世帯においては無料となっているようでございます。

派遣制度を利用されている方々も御老人ばかりではないわけですが、特に私は障害を持ってしまった在宅介護で生活できる高齢の方々の現状、市としてこれからどう対応していったらよいかという問題についてお聞きしていきたいというように思います。これから先高齢者がふえていくであろうと十分認識なさっていると思いますが、この問題は避けては通れないと思います。

ことしの3月でしたか、厚生省が発想の転換をし、寝たきりゼロへの10カ条を発表しました。確かに現状の在宅介護対策では寝たきりになってしまう状況ではないかと思います。病状が安定したので在宅でと対応しても、家へ帰れば家のつくり等は障害を持ってしまった人々の住めるような状態ではないわけです。結局寝たきりになってしまうのが現状ではないでしょうか。介護を要するとされた方が我が家で生活を続けていくには、その家族の方々に任せてしまうということではなく、ホームヘルパーの派遣、財政援助、生活用具の援助等行政の支援体制が必要になってくると思います。東京の江戸川

区では、平成2年10月から介護を要する60歳以上の方、また60歳以下で障害者手帳交付を受けている方全員に対して、寝たきりをなくしていくという運動の一環として、持ち家の方に限られるそうですが、段差の解消、ふろ場の改造、手すり、リフト等設置、区が全額負担で補償をし、行われているそうでございます。寝たきりにさせないための対策を真剣に考え、介護される方も介護する方も安心して暮らしていけるような努力を一体となってやっていくことが必要かと思えます。

そこでお伺いをいたします。在宅介護を受けておられる方に対して市としてどのような援助が現在されているのでしょうか。また、現在のホームヘルパーの方13人ということでございますが、要望に十分応えられていると思われますでしょうか。入浴サービスは月に何回のペースで利用されているのでしょうか。また、今後在宅福祉対策としてデイケアセンターのほかには何かお考えがありますでしょうか。

以上、明快な御回答をいただきたいと思います。お答えにより再質問をさせていただきます。

ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1のごみの減量化及び再資源化についての御質問でございます。具体的な牛乳パックの回収につきましては、御意見がございましたが、回収方法等問題がございますので、現段階では実施する考えはございません。回収している団体もあると伺っておりますので、今後も検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2点目の城山公園の利用状況について、こういう御質問でございました。城山公園は都市公園法で位置づけられた総合公園として計画的に整備を進めてまいりました。平成2年度末には計画されました事業もほぼ完成し、幅広く市民の憩いの場として、また歴史、文化等の教養の場として、さらに観光の拠点として多くの方々に利用されているところでございま

す。

いつ登ったのかという具体的な御質問ございましたが、一番新しいのでは、5月の10日の午後1時歩いて登りまして、下ってまいりましたのが歩いて午後4時半、5月10日でございます。この日は茶室利用促進会の方にお願ひしまして、全部の方に歩いていただいた。それが新しいところでございます。

今後の公園整備につきましては、市民の方々からのいろんな御意見もちょうだいしております。そういう御意見を参考にいたしまして今後の検討を重ねていきたい、こう考えております。

次に、大きな第3の川名岡地区の下水整備についてでございますが、市道以外の生活道の排水整備につきましては、現在地元区から資材交付の要望がありました場合に原材料支給で対処しております。なお、同地区におきましても同様に対処いたします。

次に、大きな第4の在宅福祉対策の現況と今後についての御質問でございますが、現在ホームヘルパーの派遣、入浴援護、ショートステイ、日常生活用具の給付等、また各種手当といたしまして、重度痴呆性老人介護手当、重度障害者等福祉手当、特別障害者手当により福祉の増進を図っております。今後人口の高齢化等、多様化する福祉需要を踏まえまして、在宅福祉の3本柱でございますホームヘルパー、ショートステイ、デイ・サービス事業を推進してまいりますが、なお具体的な問題につきましては、細部にわたります御質問につきましては部長から答弁させます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、ホームヘルパーにつきましてお答え申し上げます。

ホームヘルパーにつきましては現在13名で対応しているわけでございますけれども、この増員につきましてはいろいろこれからのニーズに合わせましてやっていきたいというふうに考えております。それから、入浴サービスでございますけれども、現在は月、水、金と1日に午前中1名、午後1名、そういうことで、合わせまして35名を入浴をさせております。

それから、デイ・サービスセンターのほかには何かお考えがあるかということでございますけれども、ただいま市長が話しましたように、今後制度または施策につきましては市民の高齢化のニーズに応えまして種々検討してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 市長さんにお伺いをいたしたいんですが、城山公園お登りになったということで、感想を一言だけお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 都市公園としましてかなりよく整備充実しているなという感じを持ちます。特に、あの庭園、それから植物園 — 万葉植物園を含めまして、それから季節的な、花壇的な植栽、さらに頂上に上がったときの風景及び博物館の本館、分館、あの機能的なものなどすばらしい、こういう感じ持ちます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） ありがとうございました。

それでは、質問させていただきます。ちょっと漏れがありましたのでお聞きします。ごみの問題ですが、牛乳パックの処理現在どうされているのかという御質問に対して御回答をお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現在は燃えるごみということで処理しております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） ありがとうございました。

それから、これは川名岡の下水設備についてでございます。お伺いをいたしたいと思いますが、市道以外の排水は市としてタッチできないということなのでしょうか、お伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 市道以外と言われてもいろいろの道がございます。ということは、いわゆる赤道であるとか、あるいは私道とかいろいろあ

りますけれども、鈴木議員さんのおっしゃるのはたしか赤道のことだと思いますけれども、赤道についての管理は、これは市でございます。ただ、現在のところ館山市とすれば市道優先でございますので、赤道についてのものについては地元と協議をしながら、その舗装であるとか、それから側溝だとかということについては地元をお願いしているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 先ほどの御答弁によりまして、まず第1点目のごみの減量化の問題ですが、牛乳パックの回収をお願いしたいということなんです。先ほどの協田議員の御質問の中にもございましたが、古紙回収による可燃ごみの減量ということで、約1.8%の減量があったということをお聞きしましたが、現段階では考えていない、検討していきたいということではございます。館山では古紙回収ということ始めて、最近回収量なども大変軌道に乗ってきたということをお聞きしていますが、カレンダーとかを使った市民の意識高揚、こういうことにも努めておられるわけです。そういうことを考えましても、かなり前向きにやっておられるというような感想を持っています。これからも前向きに減量化、再資源化に向けてぜひ頑張っていってほしいと思いますが、先ほど話しました松戸市、ほかの場所にもあると聞いていますが、一応市役所玄関前にかごを置いて牛乳パックの回収、人の出入りが多いからということでございますが、やはり軌道に乗るまでには大変こちらも時間がかかったと聞いております。しかし、こういった問題は時間をかけても続けていくということが大変大事なことになると思います。ぜひ今後進めていってほしいと思いますので、御要望をさせていただきたいと思います。

2点目でございますが、城山公園の利用状況ということです。市長さんにおかれましては5月の10日に登られたということで、大変景色のいいことだったろうと思いますが、城山公園は私もよく行きます。利用されている方は子供さんやお年寄りの方が非常に多いわけです。子供たちやお年寄りの方の声にぜひ応えていてもらいたいと要望いたしたいと思います。

第3点目でございます。この問題——川名岡地区の下水設備についてでございますが、確かに市道以外の道でございます。しかし、赤道——先ほどの御答弁にもございましたように市が管理しているわけですから、やはりかわってってもらいたい問題だと思うんです。三度三度の食事の支度にも気を使いながら生活している人たちにとっては大変重要な問題なんです。市としてどこまでお手伝いができるのかということになるかと思うんですが、ぜひこれから先指導をしていってもらって、早急な下水設備をお願いしたいと思います。

第4点目でございます。在宅福祉の現状と今後についてということでございましたが、現在先ほどの御回答をお聞きしただけでは、これはとても私自身も納得のできない内容だと思います。お年寄りの人たち、例えばおしゅうとめさんとか父、母と同居している多くの働く婦人たちは、ただひたすらいつまでも年老いた父や母が元気でいられるようにと願っているんです。年老いた父や母が倒れたら、面倒を見るのは働く婦人にかかってきていることですから、これは現実です。こういった人たちが安心して暮らしていけるような援助対策を早急にやっていってほしいと思います。大まかなことは大体お聞きしましたが、在宅介護については私も経験をしているところです。

そこで、1つだけお聞きしたいのは、家族が面倒を見られなくなったとき、例えばけがや病気で入院をしたり冠婚葬祭など、そういったときに現在市では何が援助できているのか、一言お伺いをいたしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ショートステイ制度という制度がございます。この制度を現在御利用をいただいているわけでございます。具体的には、家族の都合で在宅の方々がお年寄り等面倒を見れなくなった場合1週間、また痴呆性老人については30日ということで特別養護老人ホームに入所できるという制度でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 済みません。もう一つお尋ねしたいんですが、この

制度はすぐ利用できるわけですか。例えば、今けがをして入院をしてしまった。すぐお願いできるわけでしょうか、御回答いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） これについては特老の状況がございます。そう
いうことで、すぐという — 空きぐあいによりますけれども、直ちにという
ようなケースにはならない場合が多いんじゃないかというふうに判断し
ています。それと、緊急といいますか、伝染性の疾患があるとこれは困りま
すんで、そういうような場合は直ちに入所できないということであります。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 今の御答弁で直ちにというようなことにはならない
というようなことですが、けがとか冠婚葬祭、例えば人が亡くなったとかい
うことは突然起こるわけで、前もってお知らせするようなことではありませ
んの、大体のことはお聞きしましたが、私の感想といたしましては、制度
あっても魂入れずかなというような感想を持ちます。そういうことを今後も
言われ続けられないように、私はこの問題につきましては今後も継続して御質問
を申し上げていくことになるかと思いますが、どうぞよろしく願ひいたし
ます。

終わります。ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午前11時37分 休憩

午後 1時02分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数26名、休憩前に引き続き会議を開
きます。

次に、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 通告いたしました4点について御質問を申し上げ
ます。昨日から大変論議が続いておりまして、お疲れかと思ひますけれども、
最後になってまいりましたので、ひとつよろしく願ひいたします。

まず最初に、福祉活動の拠点となる福祉センターの設置について御質問を申し上げます。館山市の高齢化は急速に進みまして、現在では65歳以上の人口が19%を超える状況になってきております。こうした中で、全国的な視点から見ましても、福祉の位置づけは市政の中で重要な課題になってきております。したがって、昭和49年6月19日には福祉都市宣言を決議をいたしております。ちょうどあすが17年目になるわけでございます。市長も就任以来、文化福祉都市を市政の基本にしておられますことは同慶の至りです。

そこで、福祉は政策や方針だけではなく、具体的な実践と行動が伴わなくては何の意味もございません。市長は本年度の施政方針の中で、市民の多様化した福祉需要に応ずるためには福祉サービスの一層の質的、量的拡充を図る必要があり、社会福祉協議会と連絡を図り、ボランティア活動の充実等、地域ぐるみの福祉活動をより一層推進してまいりますと述べられております。私も全く同じ考えでございます。この施政方針に述べられている福祉政策の実現に私も全面的に協力をいたしてまいりたいと思うところでございます。

そこで、県の5カ年計画による「さわやかハートちば」の中に地域福祉活動の拠点として地域福祉センター15カ所を新たに新設することが盛り込まれております。館山市も遅ればせながら他の市町村並みに総合福祉会館を建てる必要があると思いますけれども、市長のお考えを聞かせていただきたいと思います。

次に、市長は昨年選挙で社会福祉協議会の公開質問状に答えて、文書で総合福祉会館の建設を公約されております。非常に歓迎すべき公約で、敬意を表します。しかし、公約は立派であっても実現されなくては、逆に不信と信頼を失い、市政に悪い影響を及ぼすことになります。本年3月議会に提案された館山市5カ年計画にはこの福祉会館の建設がないのはどうしたことなのか、この点について御説明をいただきたいと思います。

2番目に、文化会館並びに美術館の建設について伺います。県立文化会館の建設については昨日3名の議員から質問され、いずれも活力ある文化都市を目指し、積極的に努力し、誘致に取り組む決意が述べられ、私もこれを了解いたします。

そこで、具体的な問題として、受け入れ態勢ができていいのかお伺いをいたします。まず、文化会館を建設する場所はどうなっているのでしょうか。平成3年から7年の計画であるので、本年——来年度予算には設計費等を決定しなくてはなりません。したがって、現時点で場所が内定していなければ話にならないと思うわけでございますけれども、この点についてお伺いをいたします。これまで文化会館の誘致活動をなされてきたとのことでございます。どこの場所にどのようなものを建てようとして県と話し合いをされたのか、その感触についてお伺いします。そして、今後はどのような対応をなされていくつもりなのか、この点についてあわせてお伺いをいたします。

3番目に、市民の有志を中心に「館山に県立文化ホールを！南房総住民の会」が結成されようとして、準備会の発足を見ました。市はこの住民運動とどのように協力をし、支援をしていかれるのか、そのお考えを聞かせていただきたいと存じます。

4番目に、美術館の建設についてお伺いします。文化都市館山に美術館は必要だと思います。最近館山の美しい自然を求めて一流の芸術家が館山市に居住するようになっております。その多くの人たちとお話をするたびに、館山市の文化施設の貧しさに驚かされております。

布良の海と青木画伯は有名でございます。テレビの特集でも放送されているところでございます。しかし、青木繁の作品を見た市民は少ないと思います。そこで、青木繁の作品を借りて展示しようとしても、美術館がなくてはできないと思うのでございます。また、NHKテレビの水墨画教室の講師になった岩崎巴人画伯の作品も館山市には非常に多く寄贈されております。博物館で展示をしておりますが、美術館で展示をしなければその意味は半減されるわけでございます。美術館の展示をしていただきたいというふうに願うところでございます。

文化都市館山のシンボルとして、また観光リゾートの目玉に美術館を建設することが今館山市にとっては非常に大切だと思うのでございます。どこの市に行っても、外国に行っても、美術館はその地域の観光として、また文化のシンボルとしてあるわけでございますので、そうした面からも市長はどの

ように考えられるのか御質問をするところでございます。

大きな3番目、沼地域の砂じんと騒音公害に対する救済について伺います。館山の沼地域は私の小学生のころは西ノ浜柏崎海岸と言われ、美しい白砂の海でございました。戦時中に埋め立てられ、護岸ができました。そして、住宅地として静かなところであったわけでございます。しかし、最近はさらに埋め立てられ、土砂の積みおろし場となっており、砂と騒音の公害が目には余るものとなっております。現状では市民の生活が脅かされて、見逃すことができないと思うのでございます。

そこで、最初に砂公害についてお伺いします。積み荷の砂、砂利、土砂から生じる砂公害と、その運搬によるまき散らしはひどいものがあるようでございます。この実態を正確な調査により明らかにする責任は自治体にあると思うわけでございますけれども、この対策と救済についてはどのように考えられておられるのか御質問をいたします。

小さな2番目、護岸の補強工事による振動公害についてお尋ねをいたします。くい打ちによる振動は洗面所、便所、ふろ場等にひび割れを起こしております。したがって、関係者は町内会に回覧を回し、被害届を求めています。その結果、5月末には十数件の被害届が出されたそうでございます。これに対して補償するようでございますが、しかし回覧板だけでは申し出をしない人が非常に多く、不満が山積していることも事実でございます。それだけでありません。この工事はこれから毎年続けられるとのことでございます。住民に被害の出るような工事は即時に停止させ、改善させる必要があると思いますが、この点についてお伺いをいたします。

小さな3番目、被害に対する救済として、税金を減免をするというようなことはできないと思うのでございますが、例えば町内会費相当額の補償をするとか、地域の生活基盤——道路、下水道、街灯等を特例的に整備をするというようなことはできないものでしょうか、この点についてお伺いをいたします。

4番目に、残土並びに廃棄物の市内持ち込みについて、これを規制することについてお伺いをいたしたいと思うのでございます。自分たちのまちの廃

棄物は自分たちのまちで、工場の廃棄物は工場の責任で処理することは当然でございます。館山市の財産は美しい自然です。この自然を守り、子孫に伝えていかななくてはならないと思うのでございます。また、リゾート地として、観光地として、安房郡市外からの廃棄物の持ち込みは規制をしなくてはならないと思うわけでございますけれども、この点についてはどのように考えられておるかお伺いをいたします。

また、現在対岸の神奈川県から船で大量の残土が運ばれてきているわけでございますけれども、残土は産業廃棄物の対象から除外されてはおりますけれども、残土は残土であります。全く公害のないものだとは言い切れないわけございまして、この点に対すところの監視、調査、そういうものはどうようになっておられるのか。地域の住民も非常に心配しているわけでございますので、この点についてお伺いをします。

次に、産業廃棄物の最終処分場の確保は一般廃棄物と同様に自治体で責任を持つことが大切であると思うのでございます。館山市には産業廃棄物の処分場がないため、不法投棄の原因になっていることは明らかでございます。自分で出した廃棄物は自分で処理をする。自分のまちから出た廃棄物は自分たちのまちで処理をする。このことができれば他地域の廃棄物を規制することはできません。この点について市長の所信をお伺いいたします。

以上、質問を申し上げますので、よろしく御答弁をお願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

第1の福祉活動の拠点となる福祉センターの建設にまつわる問題でございます。その小さな第1点目、多様化する福祉ニーズに対応するための問題及び第2点目、社会福祉協議会への福祉会館の建設の問題、この1点目、2点目を一括してお答えいたします。

地域ぐるみ福祉を推進していく上で、社会福祉協議会を推進母体として、住民参加により行政機関、社会福祉施設、ボランティア活動等のネットワーク化を図り、地域の福祉需要にきめ細かく対応できる総合的な福祉施策の推

進が重要と考えております。そして、そのための拠点整備は重要な課題と認識しております。貴重な御意見もちょうだいいたしました。当面地域住民やボランティア等各種団体の活動の拠点として市民センターを活用しながら整備充実してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2の文化会館及び美術館の問題でございます。小さな第1点目、県立地域文化ホールの建設見通しについての御質問でございますが、これにつきましてはさきに流山議員、他の議員の方々にお答えしたとおりでございます。地域としてはコミュニティセンターの北側地域を考えております。

次に、小さな第2点目、誘致運動の経過と今後の取り組みについてでございますが、昭和62年に県の半島振興計画に位置づけられ、今年度にさわやかハートちば5か年計画に位置づけられました。この間、千葉県市長会、自民党移動政調会等機会あるごとに要望し、県当局にも幾度となく陳情等をしてまいりました。今後も館山市への誘致が実現しますよう、議員各位、市民の皆様方の御協力を得て誘致活動を活発に展開してまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点目、市民の方々による誘致活動への協力、支援の御質問でございますが、市民の方々の盛り上がる自発的な活動は尊重すべきものと考えております。

大きな第2の小さな第4点目、美術館の建設についての御質問でございますが、教育長から答弁させます。

大きな第3の沼地域の砂じんと騒音公害に対する問題でございますが、小さな第1点目、砂じん公害の調査についての御質問でございますが、今後沼地域の砂じん公害の実態と先進自治体の調査例等を参考にいたしまして検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、護岸補強のためのくい打ちによる振動についての御質問でございますが、現在被害状況等について館山土木事務所において調査中と伺っておりますので、その結果について報告を聞き、今後被害が出ないよう関係者と協議していただくよう館山土木事務所に要望してまいります。

次に、小さな第3点目でございますが、先般館山地区連合会長を初めとする地区6区長等と館山港臨港事業協同組合理事長ほか関係者と初回の合同会議が開催され、今後も定期的に会議を持ち、お互いに意見交換をしていくことで合意したと承っております。

大きな第4の小さな第1点目、残土の市外からの持ち込み規制についての御質問でございますが、残土と言われておりますのは土砂等の通称でございますが、この土砂等の市外からの持ち込みにつきましては法的に規制することはできないものと考えております。

次に、小さな第2点目の御質問でございますが、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に規定しておりますように、基本的には産業廃棄物はその排出者たる事業者が自ら処理しなければならないものでございますので、現段階で産業廃棄物の処理に当たっては事業者が中心的役割を果たすものであると考えております。

以上で終わらせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

文化都市館山にふさわしい美術館をつくったらどうか、こういうような御質問でございますけれども、将来的には確かに検討すべき問題である、このように考えておりますけれども、現在のところ建設をするという考えはとっておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 何か非常に総論としては立派な答弁であり、何か非常にいいようでございますけれども、各論の面で非常に物足りない面がありますので、その点について幾つか再質問をいたしたいと思います。

まず最初に、福祉センターの建設についてでございますけれども、市町村に福祉センターができておるのが平成2年度末で県の5カ年計画によりますと34カ所あるそうでございます。館山はこの中に入っていないようでござい

ますけれども、この点について、福祉都市宣言をした館山市でどうかということについてどのように考えておられるのか、まず御質問いたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 地域福祉センターの建設ということでございますが、これは県が5カ年計画の中でも新設15カ所ということでなっております。ただ、これは非常に現在も補助はされているわけでございますけれども、館山市がこの中に入っていないということでございますけれども、今後県とも相談しながら建設についてお願いをしていきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） お願いしていくのは結構なんですけれども、2番目にボランティア活動の拠点として市町村に福祉センターを設置するように促進するという通達が厚生省並びに県から出されておるということを聞いております。そして、この全国市議会議長会の新聞の中にも厚生省はこの問題を取り上げて各自治体にということでもって、市議会の議員の新聞にも全国の中でも福祉総合センターをつくるよう云々というようなことも出ているわけでございまして、この点国や県の指導を受けて館山が34番目以降、またこれから15つくる中に入っていないというようなことについてはどのような気持ちなのか、どういう考えなのか。これは国、県の方針が受け入れられないという、館山はそういう状況なのか、それがどこにあるのかひとつ御質問をいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 御承知のように、館山市は本年度から新しい5カ年計画をつくったわけでございます。そういう中で、とりあえずといえますか、そういうボランティア活動についての施設、ハードの面については市民センターの整備充実を図っていくんだというような基本的な考え方を持っているわけでございます。そういうことでこの県の補助等も今後お願いしていきたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 施政方針の中でも、先ほど申した多様化する福祉活動については市民センターの中に福祉協議会を設置して対処していきたい、こういうことを言っているわけでございますけれども、市民センターに事務局を置いているというだけでもってその成果は私は十分発揮できないんじゃないかというふうに思います。したがって、今回議運の方にも総合福祉会館をつくってもらいたいという陳情が福祉協議会初めボランティア団体の幾つかの連名で出てきているわけでございます。この点はどういうことなのか。

そして、市民センターは市民センターなりの機能と役割があるわけでございますから、その総合福祉会館の機能と役割は必ずしも一致しないんじゃないかというふうに思います。いろいろな――先ほど協議員も質問しておられましたけれども、ホームヘルパーだとかショートステイだとかデイ・サービス等、またこうしたものを担う民間の奉仕団体、こういうような人たちのやっぱり拠点として総合的にやっていくんだということでございますから、となってくるとやっぱり機能が全然違うし、これでは本当に現場でやっている福祉関係団体にしてみれば、もう本当に頼りないというか、他の町村はやっている。国や県はこうしてやっていこうということでもって予算も組んでやっているのに、館山は市民センターで何とかやっています――これでは納得いかないんじゃないか。

ましてやもう17年前に県下でも早々と福祉都市宣言した館山市でございしますから、私もちょっと調べましたけれども、市の中で福祉都市宣言しているのは千葉県下でも半分ありません。少ない方でございます。そういう中でこの状況じゃ私は納得できないと思うんですけれども、この点については――施政方針の中にはこうした対応については市民センターの中の強化をして云々と書いてありますけれども、ちょっと筋が違うんじゃないかと思っておりますけれども、どのように考えられるのか。はっきりと市民センターで今やっていてこうしたものに対応できるのか。福祉会館をつくれば、私はもっとよりよい質、量ともに大きな成果が上がると思うんですけれども、この点についてはどう考えておるのか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ボランティア活動等の施設として福祉会館が独立したものでありたいという声確かに聞いております。したがって、市長の答弁にもありましたけれども、このような拠点整備、大変重要な課題だというふうに認識している。だから、これからも整備充実を図っていきたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） これ以上あれしてもいけませんけれども、きのう厚生省の発表によりますと、日本全国の65歳以上の男性と60歳以上の女性の人口が10%を上回った。大変なことだということを言われておりますし、10年先には大体14%ぐらいになるだろう。これはもう国としても大変な事態になるということが言われているわけでございますけれども、先ほど申したように館山市はもう既に19%、さらにこれは数字がふえていくだろうということが言われているわけでございます。

こうした中でもって、福祉はもう最優先課題、待ったなしの問題だと思うんです。今言っているように、総論でもって総合的な福祉の充実に鋭意努力します、これだけじゃ私は済まされないと思います。何をさておいてもやっぱり福祉会館を建てて具体的にやる。具体性のない福祉なんていうのは、こんなものはもう全く役に立たない、もうどうにもならない無用の長物でございますから、福祉はもう行動です。ぜひこれはやっていただきたい。そうでないと市民の信頼失いますよ、福祉都市宣言して。県下では34の市町村にできている。市は大半はできている。館山はできていない。この5カ年計画に盛られていないということは大変な事態ですから、それは私も協力していきますので、ひとつこれは、何をさておいても福祉会館の問題についてはひとつその言葉どおりに対処していただきたい、この点を要望して、次の文化会館の件について御質問申し上げます。

文化会館につきましては、鋭意努力をして誘致活動に努めておるということでございますけれども、県との交渉その他の中でもって具体的にコミュニティセンターの北側につくるということでございますけれども、土地の面積の大きさだとかどういう規模のものをつくるといふ、そういったもう建設の

事務交渉なり、そういうものに入っておられるのか、入ったことがあるのか、この点についてまず御質問いたします。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） お答えいたします。

先ほど御説明いたしましたように、県は南地域に県立地域文化ホールを設置するということになっておりますけれども、現在のところ設置場所、設置内容については一切示されておられません。また、県当局におきましても今後十分検討して設置場所を決めるという段階でございますので、そのような話は現在のところ出ておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 市長はこの場所をコミュニティセンターの北側につくるということを言われておりますけれども、この点について少し詰めて質問します。

私はここへつくことはちょっとなかなか難しいんじゃないかというふうに思っておりますので、こんなことでもって取り組んだ日には大変なことになるんじゃないかというふうに思います。それは、5月の29日にオープンした東総文化会館は、総工費が46億円で、全部県が持ちました。千葉の県民文化会館に次いで2番目だそうでございます。ここの規模は、900名と300名の大小のホールを中心にして、音楽、演劇等、各種の大会等が催される近代的な施設だそうでございます。その建坪面積が9,990平米、約1万平米だそうでございます。それから、会館前に文化会館の広場として2万平米があるそうでございます。これは市の方でもって管理しているそうでございます。そのうち9,000平米が駐車場になっておりまして、300台から350台の駐車場になっているそうでございます。そのほかに69台分の駐車場を近くに確保して借りてあるそうでございます。この総合計の面積を合わせますと、約3万5,000平米になるわけでございます、単純的に足していきまして。しかし、県はこれじゃ足りないから、とにかく4,500平米を拡張しなさいということでもって、新しい4,500坪の今土地買収に入っているそうでございます。こ

れが最低の線だそうでございます。そうすると、合わせて4万平米でも小さいと言われているんです。東総文化会館と同じものをつくるとすれば、4万平米を必要とするんです。

あそこのコミュニティ広場の面積についてはどのぐらいあるかということは御承知だと思いますけれども、5万5,000平米でございます。そのうち既にコミュニティセンターが建っております。差し引かなきゃなりません。そして、あそこには今度バイパスの計画があります。ど真ん中にあのバイパスを抜かなきゃいけないんです。今市長が言ったように、コミュニティセンターの北側というのは今ある道路の北側2万8,000平米しかないんです。そこにコミュニティセンターもあるんです。とてもじゃないけれども、敷地的には無理でございます。

さらには、館山市が市庁舎の建設基金をつくって、市庁舎の建設用地としてコミュニティセンターのあの南側を予定しておるわけでございます、聞くところによると、周辺の住民といろんなことについて話し合いを持った。ここへ建てることについてどうかという話し合いにも入っておるというようなことでございます。市役所をつくるにしたって約1万平米ぐらい必要とします。とてもじゃないけれども、東総——旭にできた文化会館が建ったというような敷地はあそこにはございません。

市がつくるんだったら何とか——県で言うのは最低4万坪ということでございますから、あそこをやるんだやるんだということ私も耳に入っています。本当に市長もそう思っているとなるとこれは大変だなと思います。今の答弁の中でもあそこへつくる予定だということで、あそこへつくる予定だということでもって市民運動を展開していても、県がつくる場合にはとてもじゃないけれどもうんと言わないんじゃないか。この点についてはどう考えておるのか。私はこれは大変な問題だと思います。このことを解決できなければ館山市には文化会館建たないわけでございますから、この点どのように考えておられるのかお聞きしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） ただいまの御指摘の点でございますけれども、

現時点では設置内容が具体的に示されておりませんので、判断することはできませんので、具体的な内容が提示された時点で慎重に対処していきたいと思っております。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） そんなことじゃ文化会館はできません。一昨日98年の冬季オリンピックが長野に決まったんですけれども、あれ決めるについては長野県と長野市は19億円の予算を使って誘致活動をしたそうでございます。そして、バーミンガムのI O C総会には1,000人の県民を動員して誘致合戦して、世界的にちょっとひんしゅくも買ったようでございますけれども、そして1,200億の施設をつくるということを条件にして誘致に乗り切った。フランスだとかアメリカでは日本は金に任せて強引にやったということを新聞報道で言われておりますけれども、この50億相当の県民会館をつくるには——オリンピックというのはこれフェアプレイの精神のあれですけれども、その誘致でもそれだけやるのに、県が示されたらやりましょうなんて人ごとのように言ったら来ません、ほかにも持てきたいところあるわけですから。

この点については、やはり市は住民運動のときに全面的に力を入れていかなければ大変だと思うし、また議会の中でも特別委員会等もつくって、議会も住民の先頭に立ってやっていこうという、そういう声が非常に多くの人から出されておまして、いずれはこの議会中にまとまるんじゃないかと思えますけれども、ちょっと今のようなことじゃぐあい悪いんじゃないか。それで、やはり来る場所がなきゃできないわけでございますから——5カ年計画です。平成7年までにつくるんですから、旭は4年かかっているんですよ、設計から建築までの間に。もう来年の予算に入らなければこれできませんですよ。

ここでもって私は2つのことが考えられると思うんですけれども、1つは市長は、市長言うとおりにコミュニティセンターの北側につくるということだったら、あそこの地域に市役所をつくるとか、そういうものはしません、そして、もう文化ホールだけでもって一本でいくんだということを明らかに

して県と交渉をするというようなことをするか、さもないければ、昨日の日下議員の質問の中にもありましたように、富士ディーゼルの跡地、これは館山市も県で買収して有効的に使ってもらいたいという陳情もしているわけでございます。あそこ約10万平米あるそうでございます。あそこをひとつ県に買ってもらって文化会館建てるというのなら2つも建つわけです、10万平米ですから。5万平米あればたっぷりなんですけれども、そのくらいのことを私は——もうオリンピックの誘致じゃありませんけれども、市民ぐるみでもって気違いになったような形でもって持ってこなければ私は無理じゃないかというような感じがするんですけれども、私はその程度しか頭ありませんけれども、そのほかに何か決め手になるようなものがあるのかないのか、その点について私は市長の所信を聞きたい。これはもう中途半端に終わらせたら、これ市長の責任問題になりますよ、文化会館が誘致できないなんていうようなことになると。真剣に考えてもらいたいと思いますので、その点はどうにお考えになっておるのか、ひとつお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 辻田議員からの積極的な御意見、非常にうれしく拝聴しました。その御意見を参考にしながらこれから頑張っていきたいと思えます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） きのうからの質問でありましたけれども、どのように参考されるかというようなことで、これじゃとてもじゃないけれども、そういう答弁じゃ——一般的な問題ならいいんですけれども、もう時間に迫られておりますから、これは市長さんも何とか——私も一議員で大した力ありませんけれども、これを持ってこなければだれがどうこうって、市長の問題じゃなくて、館山市として50億のあのホールができるかできないか、もうこれから50年、100年大変な問題だと思うんです。

それで、これ全部県費なんですから、こんなチャンスというのはそうざらにあるわけじゃありませんので、その点についてはひとつ真剣に取り組んで、また土地についても、私はコミュニティセンターについては、さっきも言っ

たように市長が決断しなけりゃ文化ホールそこへつくれませんよ、全部やりますよというくらいやらないと算術的に合いませんから、東総の問題について、公室長はまだそういう数字が出ておりませんから、またそれから検討しますって、それから検討じゃもうどうにもならないんですよ、これは。

ひとつ — まだ不十分でございますけれども、これ以上やってもちょっとあれですから、議会としてもできるだけの対応、特別委員会等もつくるそうでございますから、その中でもって実のあるものにしたいと思いますので、ひとつ今の答弁でもって — そういう問題を踏まえてひとつよろしく願いをいたしたいと思います。

それじゃ時間もございませんので、3番目の問題に入りたいと思います。まず第1に、これから他市町村の実態を見て砂公害のあれをしていくということでございますけれども、私はやはり実態的に言って、どこどの辺までいつどのような砂が飛んできているかというようなことを科学的に市として調査しなけりゃいけないと思うんです。県が責任ありますけれども、被害を受けるのは市民ですから、あれは簡単なもの — 君津の砂公害の測定器なんていうのあるわけで、私も見てきましたけれども、あれを何カ所かへやっておいて、どの範囲にどの程度のものがというものをきちんと判断をしなきゃいけないと思うんですけれども、そういうようなことはなされるお気持ちがあるのかないのか、まず第一に聞きたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 市長答弁にもありましたけれども、この公害の実態について、ほかの先進自治体等の調査方法、そういうようなことを参考にしまして検討していきたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） それ以上言いませんけれども、ひとつ参考にして、ひとつ他の自治体のものをして実施に移していただきたいと思います。これは地元の人は大変なものでございます。私もその地域に少し入っていますけれども、やはり風の向きによってはほこりはもう大変でございますので、私より近い地域についてはひどいものだろうということは言われております

ので、お願いしたい。

それから2番目には、残土が神奈川の方から大分運ばれてきているわけでございますけれども、先ほど残土の規制条例が――廃棄物の条例に、法律規制には当てはまらない。館山市には残土条例というのがあるわけでございますけれども、その中では残土の中に含まれておるところ――公害物質その他については調査なり検査というんですか、こういうものが含まれておらないわけでございますけれども、地域の住民から言うと、神奈川で要らなくなった砂でもって、公害にならないようなものだったら神奈川県の中で埋め立てその他をやるんだらうけれども、あれをわざわざ船でもって高い金でもって館山へ持ってきて捨てるということについては、何か悪い土じゃないか、こういうことも言われているわけでございますけれども、それまでしてこっちへ持ってくるわけでございますから、そういう疑念も出てくるわけでございますけれども、そういったあの残土の中の公害物質なり、そういうものについての検査、それから調査、そういうものはどのようになされておるのか。県は当然やっていると思いますけれども、市としてまたそれをどのように把握し、対応するのか、その点についてお伺いします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 館山市における土砂等の土地の埋め立て、盛り土及び堆積行為の条例でございますけれども、この中で許可の条件でございます。3つあるわけでございますけれども、事業区域及び周辺地域に出水等による被害を生じさせないような措置が講ぜられていること、事業に伴う隣接地、境界等の段差、土どめ等について必要な措置が講ぜられていること、その他安全対策について必要な措置が講じられていること等の条件でございます。この条件に合致した場合に許可をいたしておるという状況でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） その点についてはひとつもう少し掘り下げた内容にしていただきたい。これからも委員会その他の中でもって十分要望をしてまいりたいと思いますので、終わります。

それで、もう一つはくい打ちによる被害、これは私はひどいと思います。そこでもってあそこの港湾工事に対するところの振動規制法の適用を指定しておるのかどうなのか。県の事業ですから、県が自分だからやらないということじゃちょっとこれは横暴でございますけれども、この点については指定されておるのか指定されておらないのか、この点について伺います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 御指摘の騒音規制法、振動規制法、これに該当する地域であるかどうかということでございますけれども、館山市は入っております。これは県知事が規定するものでございまして、市町村長の同意を得てということ、意見を聞いてということですが、用途地域全部が入っておりますので、該当になります。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） そういった指定地域に入っていると、指定地域でございますと、その被害がある場合、例えば騒音については夜間は35ホン、昼間は60ホンというのが公害基本法の中に出ているわけでございます。また、振動規制法の中におきましても同様なものがあるわけでございますけれども、この場合に法律の中では、被害が出た場合については計画変更の勧告並びに改善勧告、改善命令を出すことができるというふうに規定されております。厚生白書によりますと、この防止法によって行政指導を受けた件数が平成元年でもって 327件あるそうでございます。したがって、さらにその地域内の特定工場は11万 671件勧告を出されたそうでございます。

それで、先ほども申したように、この5月22日に回覧板回して、1カ月たたないうちにその被害というんですか、ふろ場の水漏れがするとか洗面所が云々という被害がそのとき区長さんのところへ行ったら16件と言っていました。これから大分辻田さん出てきますよということでもって聞いたら、おれは出してないけれども、おれのところもひどいよ、こういうようなことを言っていましたけれども、こういうことが出ていて、これも県の事業でやっていながら、それでもってまたこれから7年間やるそうでございますけれども、毎年毎年便所がぶっ壊れたら直してやるから我慢しろとか、こういうことが

住宅地域の中で行われているということ、また館山市の中でそういうことが平然と行われているということは、ちょっとこれは見逃せない。

これは指定地域に入っているということであれば、その法律に基づいて、振動規制法によりまして計画変更、また改善勧告ができるということですから、県、国ですから自分でやらしてもらわなきゃ困るわけですから、自分だからいいというわけじゃないと思うんですけれども、この措置はとれないのでしょうか。今ちょっと予算の変わり際なものですから工事やってないそうでございますけれども、またこれから始まるそうでございますから、始まる前に対処しなければもう大変な問題だと思うので、この点についてどのように考えておるのか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

この工事は第8次の5カ年計画で、平成7年度まで実施したいということでございます。ただし、基本的には整備計画にのっとって改修工事を実施したいと言っておりますけれども、今後の方針については工法等を含めて現在運輸省と協議中であり、平成3年度工事についてはこの協議結果が出るまで見合わせる方針だということを聞いております。

なお、作業時間については午前8時から午後5時までということで、日曜祭日については休業するということを言っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質問を終わります。

次、11番議員山崎雅己君。御登壇願います。

（11番議員山崎雅己君登壇）

◎11番（山崎雅己君） 最後でございますので、しばらく御清聴ください。よろしくお願いします。

私はさきに通告をしてあります農政を中心とした数点について質問いたします。まず、第1点目は農業の振興対策と米の部分開放についてであります。第2点目といたしましてはリゾート開発とその後の進捗状況についてであり、さらに館山市における行事の整合性についての3点についてお伺いいたします。

す。

まず、第1点目の農業振興対策であります。館山市は温暖な気候に恵まれ、気候条件を有効に活用し、さらに創意工夫と農業者の努力により、適地適産物として歴史と伝統を誇る神戸地区のレタス、館野、豊房地区においては観光イチゴとして定着しております。西岬並びに神戸地区では花の出荷と花摘み園であります。全市的に見ますと、ナバナ、パセリ、春菊、インゲンなどと消費者のニーズに応じて産地化が進み、年々その市場価値を高めております。

農地の高度利用については、限られた面積のため連作を余儀なくされ、特に施設栽培においては連作障害を起こし、それがために産地が変化し、移転していく現状であります。その実例を挙げますと、銚子地方のキャベツの産地も連作障害を起こしており、これが対策として、土壌改良のため堆肥を求めて県南の安房地方までやってくる現状でございます。近くの例といたしましては、かつては市内那古地区の亀ヶ原を中心としてソラマメが多く栽培されておりましたが、今では数軒を残すのみとなり、現在では白浜町に移っております。その第2の産地白浜も連作障害、すなわち忌地による収量低下を来し、再びそのわだちを踏むものと懸念されております。今後産地の競合と農地の高度利用はますます進むものと考えられます。この農地の連作障害が農業振興に及ぼす影響は深刻なものがありません。これらの対策と指導方針をお伺いする次第であります。

また、農業は今や1.5次産業と言われており、3次産業に近づきつつあると思います。統計のルールは1次、2次、3次産業に区分けされておりますが、農業、漁業にしても観光にかなりの比重を占めております。現状から将来首都圏1,000万人人口を抱えておりますので、この対応についてのお考えがありましたらよろしく願います。

次に、米の部分開放であります。毎年水田農業確立対策で米の生産調整が行われ、館山市における調整高は関係各位の努力により良好な成績を上げております。その御苦勞に対し敬意をあらわすものであります。

このような現状の中で、牛肉、オレンジと日本の農業に対する風当たりは

強く、米市場の開放を迫ってきております。米の市場開放は日本農業の基盤の崩壊だと農業団体は強く抗議を重ねており、農民の死活問題であります。

新聞報道によれば、首相は米部分開放を決断、6月下旬にも正式決定。最低枠を受け入れ、または国会決議を見直し働きかけて ― と報じております。従来の食糧安全保障論の立場から、日本にとっては基礎的な食糧である米の完全自給方針を転換するので、政府としては最小限の輸入自由化にするために、輸入枠5%以内にとどめたいと方針を示しております。

それに加え、日経連の会長は、米の市場開放問題については、新多角的貿易交渉を成功させるために一部譲歩をしなければならないと述べております。また、経済同友会代表幹事は、米の自由化は世界の自由貿易におけるリーダーシップをとる日本の立場を失わずに決定すべきだと述べております。以上のようなことで、これからの経済界の動向も米開放に向けて同調しております。米のみが治外法権的な存在を守ることの困難性を物語っております。

このような自由貿易世界では、日本の農業の行く末は楽観を許さないものがありますので、今後に備えて合理化と大農経営への素地づくりと特色のある産地形成と農産物の品質の向上を図り、望ましい営農体制への転換を図るため、高所よりの指導と認識を要望いたします。この項は国政レベルの問題でありますので、回答は求めません。

第2点目、海洋性リゾートタウン整備計画の進捗状況についてであります。が、半島振興法が施行され、房総半島の袋小路である館山市は大動脈計画による道路網が整備され、半島全体はバラ色に染まり、さらにリゾート法の指定を受け、バラ色から東京湾の夢のかけ橋がかかるといふ、市民の夢は大きく膨らんだことと思います。これを踏まえて、民間活力を利用したレインボータウンの大きな計画は館山市民に大きな関心を与えましたが、開発に伴う土地の取得は困難をきわめ、一部業者が手を引き、事業の断念やむなしとお伺いしております。その経路と実態について御説明をいただき、その他目下計画進展中のリゾート開発とその後の進捗状況についてお伺いいたします。

第3点目、市や各団体の行事の整合性についてであります。6月2日日曜日、1991年の館山の海の祭典でございますが、北条海岸を拠点として潮干

狩り、宝探し、バーベキューなど各種イベントが開催されました。海開きは海の安全を祈願し、夏の観光を占う重要な行事であります。海の祭典は海の安全祈願が主であると思いますが、多くの人出を予想してのイベントであり、せっかくの夏の館山をPRする機会なので、諸団体に呼びかけ、全市統一して実施する意思がありますかどうかをお伺いいたします。

以上3点お尋ねしましたが、御答弁によって再質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの山崎議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の農業振興対策問題でございます。農業振興対策についての連作障害に対する御質問でございます。館山市のレタス、イチゴ、ナバナ等の野菜及び花卉において連作障害が大きな問題となっておりますことは御指摘のとおりでございます。この問題に対しましては、輪作あるいは保全管理による方法等がありますが、圃場の立地条件等の事情から、問題が多いのが現状でございます。今後市といたしましては、健全な土に健全な作物が育つことを基本に、有機質土壌改良資材による土づくり事業を推進するなどの対策を進めていく所存でございます。

次に、農漁業振興対策についての御質問でございますが、まず農業振興につきましましては、首都圏におけるリゾート地域として都市化の影響を受ける中で、極めて重要な基幹産業という認識のもとに、温暖な気象条件を生かした園芸地帯として、観光農業、特産物の産地化、省力栽培及び高生産性施設園芸の推進等、地域の特性を生かした農業経営の近代化及び合理化を図るための施策を進めてまいりたいと存じます。

大きな第2の海洋性リゾートタウン整備計画の進捗状況について御質問でございますが、館山レインボータウン計画につきましましては、開発事業者よりこれ以上進められないとの申し入れがございました。これは開発事業者としてさまざまな検討を加えた中で、実現化に向けて困難性があるとのことでございます。この計画はリゾート法承認プロジェクトでございますので、県とも協議を重ね、新たな企業の進出も含めた中で検討しているところでござい

ます。太陽海岸平砂浦計画につきましては、現在県と内協議中でございます。
また、南たてやまマリパーク計画につきましては、市におきまして事前の
審査を進めているところでございます。

次に、大きな第3の市や各種団体の行事の整合性の問題でございます。市
や市の関係する各種団体が主催または共催する行事、その他各種団体主催行
事等も加わり、各分野にわたり多数でございます。このため、従来から行事
開催に当たりましては、十分な成果が上がるよう、その都度関係各課や関連
団体と調整を図りながら実施しているところでございます。御質問の趣旨は
理解するところでございますが、各種団体の意向や開催趣旨等もありますの
で、状況に応じて対応してまいりたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山崎雅己君。

◎11番（山崎雅己君） 大体説明はわかりました。二、三質問させていた
だきます。

企業は人なりと言いますが、農業こそ人なりと言えます。そこで、過去5
年間で専業農家における後継者等、またお嫁さん、お婿さんの実態はどのよ
うになっていますか、ひとつ説明をお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいま専業農家の過去5年間の状況というこ
とでございますが、昭和61年度専業農家が 682戸でございます。その後減り
まして、平成2年度 — ちょうど5年後になりますが、この時点では 657戸
でございまして、25戸、 3.7ポイント減っております。

それから、農業後継者の結婚関係でございますが、これは市条例に基づき
まして結婚奨励金の支給をしておりますが、最近では昭和61年度に2組、そ
れから平成2年度に3組、以上の状況でございます。

◎議長（福原 勤君） 山崎雅己君。

◎11番（山崎雅己君） このような状態の中で館山の農業の将来が案ぜら
れますが、これらの対策についてお考えがありましたら。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 本市の農業は、温暖な気候に恵まれ、水稻、園芸、酪農等を中心に多様な作物が生産されております。しかしながら、何といても農業後継者の育成というのが大切なことはもう皆さん御承知のとおりでございますが、やはり魅力ある農業経営にあるんじゃないかならうかと考えております。市といたしましても、今年度布沼地区でございますか、に鉄骨ハウスの建設、それから ― これは予定でございますが、流通出荷体制を図るべく、真空予冷庫の設置を計画しております。いずれにいたしましても、魅力ある農業経営というものを、しっかりしたものをつくり上げていく。これによって後継者育成につながるだろうというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山崎雅己君。

◎11番（山崎雅己君） わかりました。市では結婚相談所を設置されておりますが、過去1年間 ― 先ほどは農業後継者の実情を教えてくださいというようなことなんですけれども、先ほどの答えが出ましたので、それは結構でございます。

では次は、私は農業、漁業、商業を問わず、今結婚問題は複雑なものがあると思います。これらの対策として、館山地域に限らず、広域的に情報を交換し、この問題に対処するために結婚相談員の増員を要望したいと思っておりますけれども、その辺の考え方はどうでしょうか、お伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 結婚相談員の関係でございますけれども、現在結婚相談員については社会福祉協議会の方に委嘱して、そこで重点的に活発な活動を行っているわけでございます。結婚相談員の増員等もこれから社会福祉協議会と協議して検討してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 山崎雅己君。

◎11番（山崎雅己君） この間ちょっと聞いたんですけれども、何か相談員が13人というようなことでお聞きしているんですけれども、館山市 ― これだけ広いところで13人という相談員では何かきめ細かな結婚相談ができないんじゃないかなと思いますけれども、その辺の考え方はどうですか。どう

お考えですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 13人の結婚相談員が若干少ないでないかというようにございます。ただいまも御回答申し上げましたけれども、今後社会福祉協議会と協議して検討してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 山崎雅己君。

◎11番（山崎雅己君） 次に、リゾート指定に関することですが、リゾート地域の開発整備計画について、県の指示するガイドラインと館山市における計画と相違点や問題点があるかと思いますが、いかがでしょうか。

また、全国的にリゾート法による指定地域が何カ所ありますか。この中で計画どおりの事業が成功した事例と開発業者が手を引いたような事例がありましたら教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） まず、最初のガイドラインの関係でございますが、自然環境との調和や景観に配慮した計画となっております。

それから、次にリゾートの今までの成功もしくは取りやめですか、失敗といますか、こういった関係についての御質問でございますが、現在リゾートの構想承認の数は――これは基本構想が承認された数でございますが、30道府県でございます。それから、プロジェクトの数は不明でございます。それから、成功した例というのはちょっと私の方でとってないんですが、撤退といいたいでしょうか、その関係をちょっと申し上げますと、ただいま総体のプロジェクト数はわからないと申し上げたんですが、断念したプロジェクトは新聞報道で13プロジェクトでございます。ちょっと理由申し上げますと、資金難であるとか採算性が合わないとかというふうな状況となっております。

余り細かい御説明申し上げられなかったんですが、以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山崎雅己君。

◎11番（山崎雅己君） わかりました。

次に、南房総国定公園内にある西岬地区の砂山についてであります。館山市の観光のポイントとして1年じゅう観光客は絶えません。この砂山がリ

ゾート地域に含まれているかどうか、また砂山の自然環境を生かした公園として整備する計画はありますか、お伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 推進プロジェクトの区域外でございます。

それと、ただいまの公園化の問題でございますが、大変御提案ありがとうございます。あそこは民有地になりますので、御意見をお伺いしておきたいと存じます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山崎雅己君。

◎11番（山崎雅己君） 砂山も自然を残してすばらしい館山のひとつ観光のメーンにしていただければと思っておるんですけれども、入り口とその中が非常にいろんなものが捨てられて、もう入り口は市道からその砂山に入るところが自動車では——ちょっと普通の乗用車で入るのに非常に何か困難をきわめておりますので、ひとつ整備しながら、早い時期に入り口ぐらい整備していただければ。それはお願いでございますので、ひとつよろしく願いいたします。

それと、次に各市町村のイベントの出し物はその土地柄の特色を生かし実施されておりますが、周辺市町村のイベントの規模や補助金制度についてお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 近くで鴨川が産業観光まつりをやはり館山と同じ日の6月2日開催されております。このときの予算関係では、事業費が829万ですか、そのうち市から600万の補助、こんなふうに聞いております。

以上でございます。

◎11番（山崎雅己君） はい、わかりました。じゃあ今後館山市における行事の実施に当たり、諸団体に呼びかけて、できる限りひとつ統一された大きな行事として発展させることを要望しまして、私の質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で11番議員山崎雅己君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後2時19分

◎議長（福原 勤君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明19日は議案調査のため休会、次会は6月20日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議を行います。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問

